

スーパー・メガリージョンの形成を見据えた 相模原市のビジョン

スーパー・メガリージョン構想検討会
平成30年11月2日

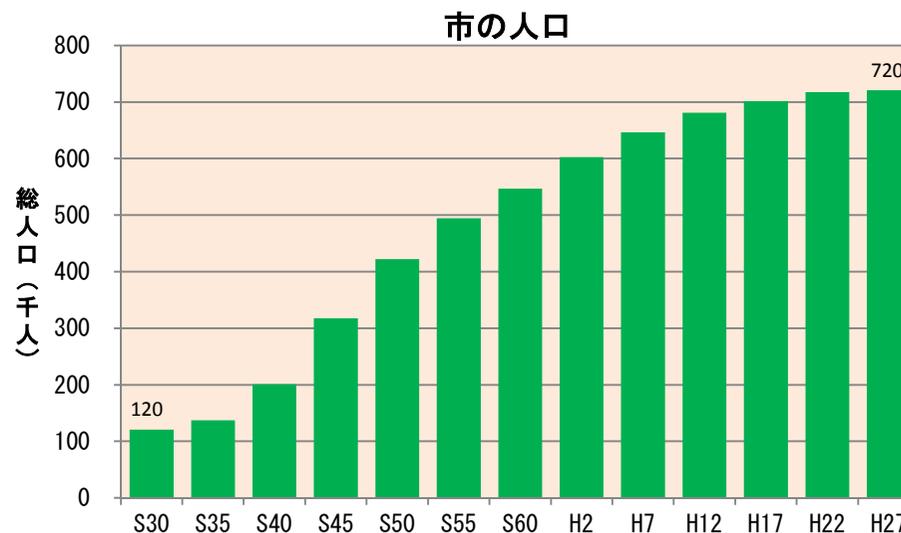
相模原市

① 相模原市の概要

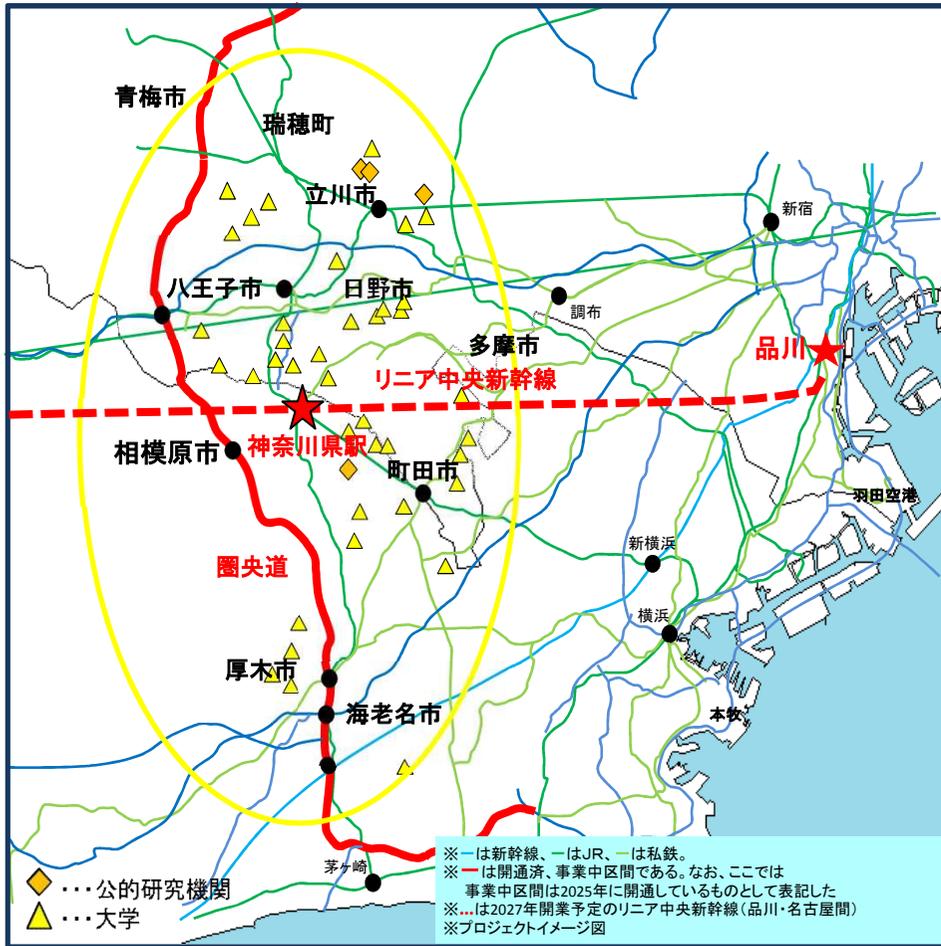
市の沿革

- 昭和14年 軍都計画 土地区画整理事業
- 昭和29年 市制施行
- 昭和30年 工場誘致条例制定
- 昭和33年 市街地開発区域第1号指定
《内陸工業都市として発展》
- 昭和40年代 年間2万人以上の人口増加を経験
ベッドタウン化の進行
《全国でもまれにみる人口急増都市》
- 平成11年 業務核都市指定
- 平成15年 中核市へ移行
- 平成18年 津久井町、相模湖町と合併
- 平成19年 城山町、藤野町と合併
- 平成22年 《指定都市へ移行》
(全国で19番目、戦後誕生した市としては初)
- 平成25年 圏央道「相模原愛川インターチェンジ」開通
- 平成26年 相模総合補給廠 一部返還(17ha)
- 平成27年 圏央道「相模原インターチェンジ」開通
相模総合補給廠 共同使用開始(35ha)

64歳 (政令市平均117歳)

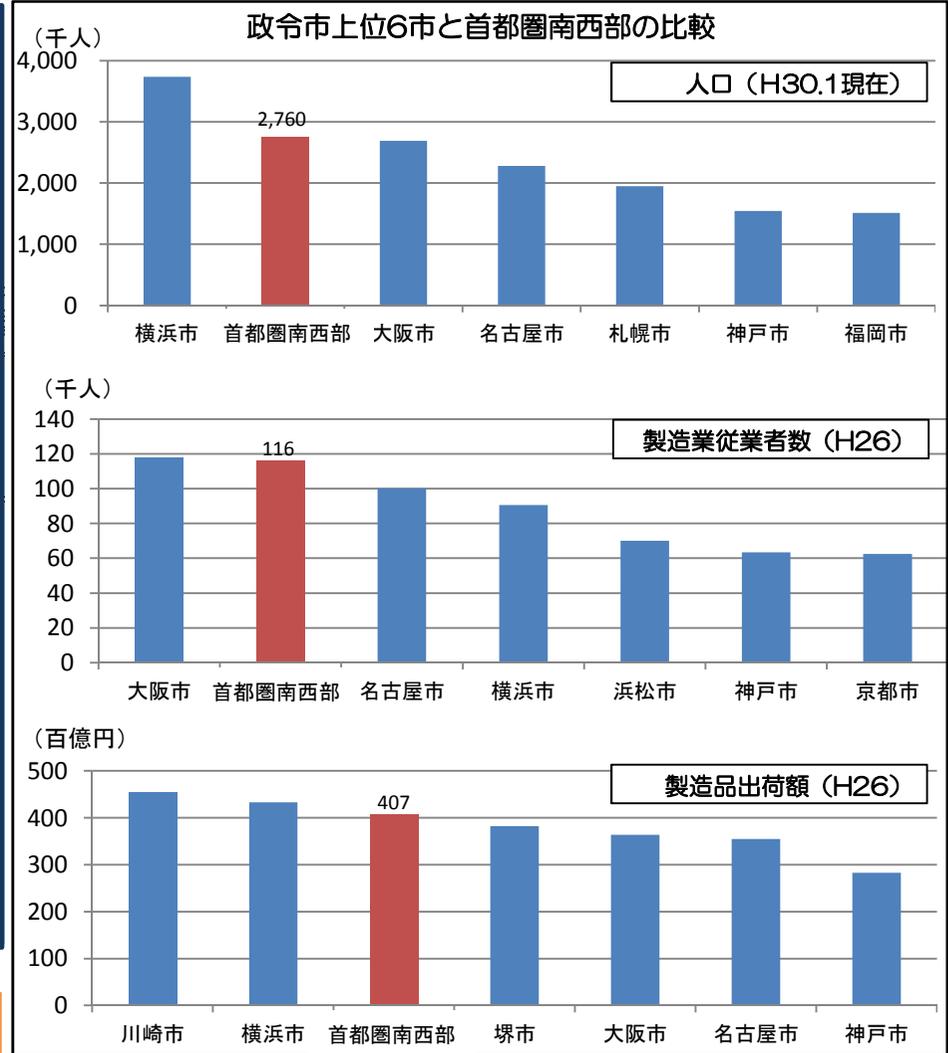


② 首都圏南西部地域のポテンシャル



(出典) 首都圏広域地方計画 プロジェクト4-9を一部加筆

- 280万人の圏域の中心
- 大学、研究機関が多数立地、製造業が集積
- リニア中央新幹線と圏央道との結節点



※ 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(総務省)、「平成26年工業統計調査」(経済産業省)より相模原市作成

※ 首都圏南西部・・・青梅市、瑞穂町、立川市、八王子市、日野市、多摩市、町田市、厚木市、(人口280万人) 海老名市、相模原市 (首都圏広域地方計画 プロジェクト4-9抜粋)

③ 産業交流拠点、イノベーション拠点としての機能集積



グローバル展開



ロボット導入支援、ロボット専門人材育成



ロボット、AI、
IoT、技術革新



MICE (国際会議等)



自動走行

スマート社会



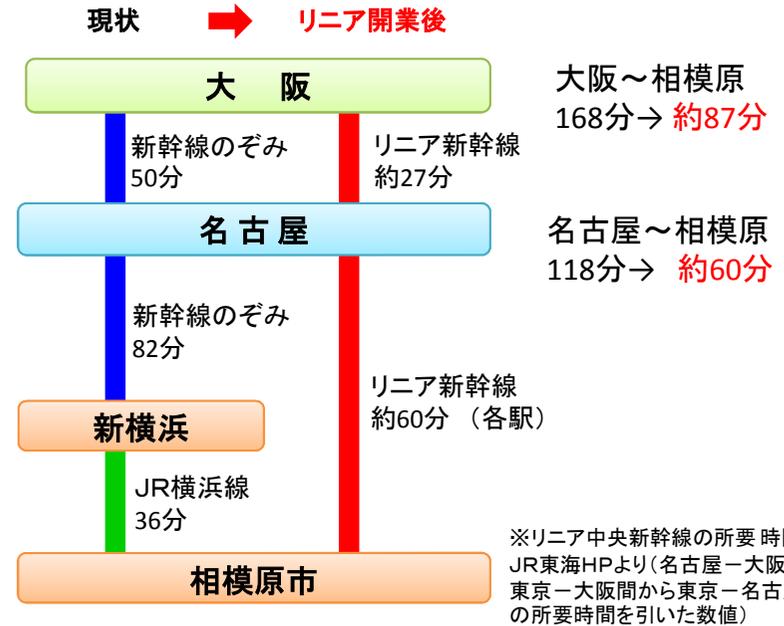
国際的ビジネス拠点の形成に向けて(橋本駅・相模原駅)

相模原台地(平坦で安定した強い地盤)



④ 地域の魅力の掘り起こし・発信（広域的な観光ルート）

圏央道を活用した広域交通網のイメージ



【相模原市周辺の観光資源の例】

- 高尾山(駅展望台より)
- 宮ヶ瀬湖(ダム観光)
- 芸術のまち(藤野)



出典：八王子市観光課



- サイクルツーリズム



- 相模湖リゾートプレジャーフォレスト



提供：相模湖リゾート株

- リニア車両基地



出典：リニア中央新幹線に関する事業説明会資料

⑤ 潤いあるライフスタイルの創出



都市と自然が
共存するまち



新宿まで約40分
横浜まで約40分

品川まで
約10分

← 現在 約60分 →

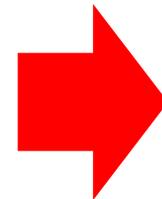


提供：しながわWEB写真館（品川区）

安定した強い地盤、
津波の危険性がない

都市的サービスとゆとりある生活環境を共に享受できる地域特性

- 都心へのアクセス性が飛躍的に向上
- 駅周辺では商業施設や企業が更に集積
- 山や湖など豊かな自然に囲まれたゆとりある住環境
- 交通・観光・農業が連携したまちづくりの構想



潤いあるライフスタイル・
ビジネススタイルの創出

⑥ 広域交流拠点の形成



橋本・相模原両駅周辺におけるまちづくりにおいて広域的な交流を生み出す機能を導入

橋本駅周辺地区:
産業の活力と賑わいがある産業交流拠点

【交流機能】
 コンベンション施設
 広域交通のハブ機能

【産業交流機能】
 インキュベーション・
 イノベーション拠点
 情報発信拠点

【防災機能】
 広域防災拠点
 首都圏のバックアップ機能

相模原駅周辺地区:
安心とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点